

日華連 会 報

中華料理会

第123号

華道大学講座



華道大学講座 会場風景



一般社団法人日本華道連盟

東京都新宿区百人町2-18-20 ☎03-3369-3769

発行人 塚 越 応 鐘

編集人 渡 邊 華 鳳



伝統文化の継承と

理事長 塚 越 応 鐘

「はあー…あー…えー…花の長瀬…」

軽快なリズムに合わせて次々と席を立ち、リーダーの後に続き踊りの輪が広がる。

秩父で開催された私どもいけばな松風の夏期講座の懇親会でのこと。地元秩父支部の会員たちによるアトラクションの一幕。他の本・支部の会員も次々と続くのだが、やはりどこかが違う。「この日のために練習したのか」と問うと、「秩父音頭は幼稚園と小学校で全員に教えらるるので秩父では誰でも踊れる」との答えが。

日本三大美祭の一つ、秩父夜祭は十二月一日から六日まで開催され、なかでも例年十二月三日の大祭は冬の花火としても有名。京都の祇園、飛騨高山の高山祭と並ぶこの祭りを秩父市民は誇りにしているとのこと。秩父音頭発祥の地、皆野地区は祭りの宝庫とも言われ、大小さまざまな山間地域の特徴ある祭りが伝わり、年によって異なるにしても、春七、夏十、秋九、冬四と年間三十を超える祭りがこの地区のどこかで催されている。



とのことですから驚きである。年寄りから若者に引き継がれ今日に至る。まさに伝統文化の継承と言えるだろう。

秩父まつり会館に展示されている山車の笠鉾、屋台の優雅で雄大な姿は魅力があり、夜祭のビデオ上映ではバス二台で見学した会員の中から歓声と拍手が出るほどで、三百年間脈々と引き継がれてきた歴史の重さを感じるひと時だった。

いけばなの現状はどうだろう。連綿と続いてきた伝統は、うまく若者に継承されているだろうか? 「若い人たちの入会がほとんどない」と流派を越えて誰もが口にするが、華道人口はまさに逆ピラミッド状態。十年

後、二十年後が心配されます。以前海外赴任を経験した人々から赴任先では、日本人すべての男性は柔道と剣道を、そして女性はお茶とお花をたしなんでいるものと思われている、と聞いていたが日本に根付いた伝統に誇りを持つているだろうか。花をいけるのがあたり前でないなりつつある現代に、せめて幼稚園や小学校で体験し、誰もがいけばなを学ぶ機会を持てたら、と思うのは私だけではないだろう。

文化庁は希薄になりつつある伝統文化継承に危機感を感じ、六年ほど前より伝統文化の親子体験に力を入れこれを助成してきた。しかし、先の政権の事業仕訳により事業は頓挫してしまい、結果を見ずに終わってしまったような気がする。現政権はこの事業を復活し推進していくと聞いており、日華連としても、次世代への啓蒙のため積極的にこの事業に参加すべきと感じている。明日のいけばなのため、今できることには積極的にならねば…。

幹部会並びに華道大学講座

◆平成25年7月28日(日)
◆浅草ビューホテル4階「駒形の間」・「祥雲の間」

幹部会

井口理香常任理事(事務局長)の司会進行のもと、田中一峰相談役の開会の言葉の後、塚越応鐘理事長より「今年是一般社団法人に変わって初めての幹部会です。(中略)皆さまの活発なご意見等よろしく願います。」と挨拶があり、塚越応鐘理事長議長のもと議事に入った。

一、二〇一四第九回時代を彩るいけばな百花繚乱展概要説明

- ・流派席をなくす
- ・席は特A・A・B・Cとする
- ・花材は前期のみ格花と自由花にはボケを入れる(※後日自由花に変更)
- ・会期は三期から二期に変更することにより設営費の節減、下生

- けの負担の軽減になる
- ・流派席出瓶の人がA・B席に移ることによりA・B席が賑やかになる
- ・B席は元の出瓶料に戻す
- ・ポスターは今年も作製する



幹部会風景



- ・C席の子どもの出瓶料は大人と同代金とする
- 二、第二十九・三十回国民文化祭あきた二〇一四・かごしま二〇一五概要説明
- ・秋田は生活文化コーナーがない

ため欠席するが国内研修旅行は検討する

三、平成二十六年度事業計画案説明(井口理香事務局長)

- 一月十三日(月・祝) 監査、第一回理事会/一月十九日(日) 総会と新年会/二月二十四日(月) 第九回華展説明会/三月二十四日(月) 第一回本部役員会/四月十一日(金) /十四日(月) 百花繚乱展/五月十九日(月) 第二回本部役員会/六月二十三日(月) 第三回本部役員会/七月二十七日(日) 幹部会並びに華道大学講座/十月二十日(月) 第四回本部役員会/十月・十一月に限らず国内研修旅行/十二月十五日(月) 第二回理事会並びに第五回本部役員会
- 四、その他

塚越応鐘先生が八月に、華道家二十四名と「つなげよう花の心」のパフォーマンスで東北の花を生け被災者の支援をします。

五、各流派の紹介

最後に塚越理事長より百花繚乱展等の協力要請があり、渡邊華風常任理事の開会の言葉で終了した。

華道大学講座

幹部会に続き午後一時より「祥雲の間」において華道大学講座が開かれた。

岡野闘華齋企画部長の司会・進行のもと、高田秀山副理事長の開講の言葉の後、塚越応鐘理事長より「今年も大勢ご出席いただきありがとうございます。」(中略)今回は前回と雰囲気が変わりクラシックの弦楽四重奏です。ヴァイオリンの佐原さんとは以前からの知り合いですが、玉川高島屋の百花繚乱展に見えられた時に丁度ヴァイオリンをお持ちだったたのでその場で演奏をお願いしたところ、快く弾いてくださいました。



▲岡野企画部長 司会
▲塚越理事長 あいさつ



そんな気さくな面もお持ちの佐原さんとお仲間たちの演奏をお楽しみください。」と挨拶があり、司会者より出演者の説明があった。昨年の十月、クアルテット振興プロジェクトの受講をきっかけに東京芸術大学出身の佐原敦子さん(ヴァイオリン)、小杉結さん(同)、阿部哲さん(ヴィオラ)、豊田庄司さん(チェロ)の四人で結成。クアルテット名の「レオニス」とは獅子座の一等星レグニスに由来し、孤高の輝きを放てるようにとの願いを込め命名したとのこと。大活躍中の若手演奏家たちだ。

一曲目は、おなじみのモーツァルトの「アイネクライネナハトムジーク」。快い弦楽器の響きに会場は和やかな雰囲気になる。

次に楽器の魅力と違いについて話していた。ヴァイオリンは、四弦の線を張り五度感覚に調弦し最高音域を担当。ヴィオラは、ヴァイオリンよりやや大形で五度低く調弦され中音部を受け持つ。チェロは、ヴァイオリンより調弦は一オクターブ低く幅が広く豊かな音色を持つ等、実際に音を出して説明してくださった。ハイヴォルセン、ドヴォルザーク、日本古謡、プッチーニの名曲に続き、前半最後の曲はヴィヴァルディの『四季』より「夏」。この曲は楽器で虫や鳥、雷鳴などを表現しているとのこと。前もって説明していたお陰で興味深く聴くことができた。十五分の休憩後は、ドヴォルザークの弦楽四重奏曲第十二



佐原敦子さん(左)と小杉結さん(右)

番「アメリカ」。祖国チェコを愛する郷愁の想いが表われており、民族舞踊風の旋律によるユニークで親しみやすい作品に感銘を受けた。アンコールには、日本の名曲「夏の思い出」、「花」の懐かしい曲で終了した。

蒸し暑い夏の日。ここだけは夢のような爽やかな風が流れたようだった。
最後に岡野圃華齋企画部長の御札の言葉で閉講した。



会場のようなす

華道大学講座 「弦楽器音の魅力」に参加して

松煙古流 大澤 一 煌

毎年、多様なジャンルのプロフ

エッショナルが見聞を広めてくれる華道大学講座。間近で弦楽器の演奏が鑑賞できるといふことで、ワクワクしながら参加しました。

講座では、講師の佐原敦子さんを始めとしたクアルテットの皆さんから、クアルテットを構成する楽器の解説（第一ヴァイオリン・第二ヴァイオリン・ヴィオラ・チェロ）や役割、演奏する上でのポ

イントなどについて実演を交えた説明がありました。

特に、弦楽四重奏の難しさは、各々の演奏者によって音程の取り方・メロディーの取り方が異なり、メンバーの人間性が反映されるといった貴重なお話があり、「いけばな」にも共通することであると実感いたしました。

そして演奏は、楽しい軽快なリズムの「ヴァイオリンとチェロの

華道大学講座に参加して

翠月古流 勝 又 華 玲

暑さの厳しい日が続き、熱中症

を心配しつつ浅草ビューホテルに向かったことが思い出されます。ですが、弦楽器の音に魅了され拝聴して帰る時には、疲れていた身体も軽く気分も弾み、帰途の車の中では皆さんとの会話も明るくアツという間に家に着いておりまし

ヴァイオリンの音色は聴いたこ

とはありますが、ヴィオラ、チェロの音色を単独で聴くのは初めてで、それぞれの弦楽器の特色がよく分かりました。ヴィオラは独奏楽器として扱われることは少ないようですが、渋みがある音色。チェロは豊かな柔らかい音色。ソロで演奏するより、四人の息をそろ

ためのパッサカリア」、お花に関連する「さくら」、プッチーニ「菊の花」、ヴィヴァルディ「四季」より「夏」、そして休憩後に、ドヴォルザーク「アメリカ」をたっぷり聴かせていただきました。まさに、明媚な素晴らしい音の世界です。塚越応鐘理事長の、花とヴァイオリンとのマッチが素晴らしかったご経験から今日の企画となったのですが、花の世界も、この演奏のように鮮やかにありたいものです。

アンコールでは、「夏の思い出」が奏でられ、真夏の暑さから開放されました。心を豊かにしてくれる有意義なひとときでした。

えて演奏する方が難しいことなども知ることができました。

お花も一つ一つの花の美しさを持つておりますが、それぞれの特長を生かして作品を作っていくところと共通するのかしら、と思いました。

演奏の前に作曲家や曲の説明をしていただきましたので、なんとなく耳にしていた曲に親しみを感じることができ、室内楽にも興味を持つことができました。

夏バテの身体を癒してくれたひとときでした。

時代に合わせた いけばな

いけばな松風 塚 越 応 駿

当流の花憲の一つに「古流を重んずると共に常に時勢の進歩に伴ふべし」とあります。華道人口の減少に歯止めのかからない昨今、いけばなが魅力あるコンテンツの一つとして人々に認識されるには新たな試みが必要と感じます。現代の人々が抱くいけばなに對するイメージを、体験教室等を催し参加者の方に何うと、意外と面白いという答えが大半を占めます。三十代より若い世代では初めて目にしたという方も少なくなく、それだけ花をいけるといふ行為が珍しく感じられ、日常生活からかけ離れたものになっていることを思い知らされます。

稽古という側面に目を向けても、毎週決まった時間に習い事をしているという方は少なくなり、月に一度、都合が合えば参加するという意見が若い層を中心に増えているそうです。常に新しいものを求め、情報が増えるこの時代、習い事も多種多様になり、仕事以外の一つのことを集中し継続することはニーズに合っていないとも考えられます。問題なのは、いけばなを目にしたこともない方がいるということとは、選択肢の一つとしても捉えられていないということです。

かつては十人に一人は花をいけていた時代、家に花が飾られることは日常でした。身近にあり、嗜みであったいけばな。待っていれば入門者が訪れる、そんな時代を知らない私と同世代のいけばな人にとって、今の置かれていた状況は素直に受け入れるよりほかありません。時代の変化に敏感に反応し、求められるものを察知し行動に移す。ここ数年、そんな意識の高い他流派の若手の先生方と行動を共にする機

会に恵まれました。

その活動のひとつとして、「東日本復興応援いけばな展」があります。未曾有の被害をもたらした今も記憶に新しい東日本大震災。花をいける事を生業とする者として被災された方達にどのような支援ができるのか。導き出した一つの答えが、東北の花をいけ、東京で花展を催すこと。そのイベントに際し義援金を募り、皆様のご厚意を仮設住宅でのいけばな教室という形にして届けることでした。このイベントを通じ様々な分野の方とのつながりもでき、マスコミ媒体にも紹介され、花の持つ力を再認識するに至りました。

もう一つの動きは「花いけバトル」というイベントです。五分間、即興で観客の前で花をいけ点数が付けれ勝者を決める。緊迫感が

あり面白いという意見に對し、戦うことに意味があるのか、時間制限が何を生み出すのかなど賛否両論。いけばなではなく花いけと銘打っているところがポイントで、いけばなだけでなくフラワーデザインなど花に関わる全ての方が出場可能なのです。私は当初、懐疑的に捉え参加を拒んでおりましたが、体験せずに批判することはおかしいと考えを改め、出場しました。イベントは回を増すごとに人を引き付け、横浜ランドマークタワー、サンシャイン、幕張メッセなど会場もスケールを広げていきます。何より驚くのは来場者の年齢の若いこと。シヨ一的な要素が強いとは言え、花をいける事でこれだけの人を魅了することができると現状は大変勇気付けられると共に、一つの方向性を示していると考えます。

高いと感じられている敷居を下げ門戸を広げ、花に触れる機会を増やす。花を身近に感じる人を一人でも増やし、その中から花に魅せられる人を見出す。花をいける事が日常ではなくなってしまうこの時代、非日常を逆手に取り人々の興味を引き、その上で時代にあった花文化を根ざす。柔軟な頭で、求める道筋を少しずつでも手繰っていかれたらと思います。



▶「東日本復興応援いけばな展」
▼「花いけバトル」



越川家元作品（中央）

華道創美家元・越川裕巧先生の華展は、田無アスター専門店の上階センターコートにおいて開催された。家元の大作を中心に幹部の

「華道創美」華展

1月19日(土)・20日(日)



華展会場風景

先生の花、そして小品と明るい会場に一点一点が彩やかに生き生きと生けられていた。お買い物中のお客様が気軽に入場できるため、多くの人たちが作品に見入っている姿が印象的であった。

マイ・トレジャーズ

草心花音会 紫 都夢

いけばなを始め、何十年にもなりました。

その中で、第一の宝物は、インターナショナルの大会に出品した時の事です。三笠宮妃殿下から「この作品は、何をイメージされたの。」「まあ、可愛いわね、この卵を取られないようにしてね。」と。その時の作品は、卵を五十個程使ったものでした。やさしくお声を掛けて下さった言葉が、忘れられません。

第二番目は、ある会でテブカツトの側にヨルダンの大使婦人から「私の国をイメージしていけて下さい。」と言われた時の事です。とても喜んでいただきました。

第三番目は、ガボンの大統領一行がいらした時、日本在住の大使婦人と共に、友好の絆を持って5作品いけさせていただきました。大統領婦人に「雑誌ではいけばなを見た事がありませんが、いけるのを見たのは初めてでした。」と、喜んでいただ

きました。が、その後急死された事を知った時は悲しみで一杯になり、笑顔だけが心の中に今も残っています。

第四番目は、女優であり、ピアニストでもある松下奈央さんと一緒に雑誌に載った事でした。彼女は、いけばなは初めての経験でした。

第五番目は、美智子妃殿下のテール花を頼まれた事でした。風邪の為、代わりに華子妃殿下がおいでになりました。終了後、いけたお花をブーケにしてお渡しした時、やさしいお言葉をいただいた思い出です。

まだまだ宝物はありますが、こうした様々な思い出の宝物は、心の糧になり私を支え、マグマのように私を押し出し、創造の世界へと駆り立てている現在です。皆様も「ユアー・トレジャー」を大切にして下さい。



紫都夢先生作品

第62回藤沢華道協会 いけばな諸流展

4月24日(水)～30日(火)

主催…藤沢華道協会

会長 長田 華鳳

後援…藤沢市・藤沢市教育委員会

Jcom湘南

レディオ湘南



日加友好協会役員とカナダウィンザー市外交員

昭和二十二年に誕生した藤沢華道協会は、毎年さいか屋藤沢店でいけばな展を開催しています。六十二回目を迎える今回は、参

いけばなショーの開催

池坊鳳秀流 長田 華鳳



五月四日TVKハウジングプラザ湘南において、いけばなショーが開催されました。

加者は前期・後期で合計一八二名。来場者は六日間で一三、五二八名を数え連日超満員でした。また、藤沢市の補助で実現した無料体験教室には募集を上回る応募があり、合計で二三〇名の参加がありました。今後とも、一般参加のできる体験教室を行政の協力の下、数多く開催していきたいと考えています。

第63回藤沢市展 (華道の部)

5月21日(火)～26日(日)

主催…藤沢市展実行委員会

後援…藤沢市

(公財) 藤沢市みらい創造

財団

当日は、晴天の下多くの来場者に囲まれ、和太鼓グループ富士の方々の演奏に合わせて大作を生けるというショーでした。

生ける時間は十分間という、短時間で見る間に仕上げていく技に、観客もため息や拍手・歓声交じりで見とれていました。

生け終わると、富士のメンバーと共にトークショーへ移り、質問の多くは「どうしたらあのような短時間で、しかもリズムに合わせた大きな木やきれいな花を挿していけるのか」というものでした。



審査、いけ込み受付

今年は公募展として二回目の実施となります。今年の応募者は三十九名。画家の唐木氏と日本女性新聞の西川氏が審査員となり、緊張の中でいけ込み・審査が実施されました。市長賞・華道協会賞・市議会議長賞・秀作賞に高校生奨励賞を選び、参加者の中には来年少所受賞をと意気込んでいる方もいました。

他部門も多くの出品者でにぎわい、このような本当の意味の公募イベントを来年も続けていくことの意義を再確認しました。

第64回神奈川県華道展

6月19日(水)～24日(月)

主催…神奈川県華道連盟

厚木華道協会

後援…神奈川県

神奈川県教育委員会

神奈川県内を持ち回りで開催しており、今年は厚木で開催されました。デパートとは異なり、市の文化会館での開催で入場者の数は多くはありませんが、この華道展の主旨の一つである「県内にいけばな芸術を普及させる」ことを実

◇

◇

◇

◇

◇

◇

践しているものです。来年は、横浜高島屋にて九月三～八日までの開催となります。

日本華道連盟からは、私をはじめ青蘭流の伊藤紅華氏、都古流美和会の生出美常氏、小原流の林有為氏、その他の方々が出品しました。

九月十五・十六の両日、御殿場高原ホテル時の栖にて、第四十八回翠月学園祭が行われました。十五日のオープニングセレモニーには時の栖の庄司会長様、前民主党幹事長細野様、御殿場の若林市長、日本大学の室伏教授を来賓にお迎えし、当学園の渡辺巖理事長と共にテープカットをしていただき、またお祝いのお言葉を頂戴いたしました。

富士山が世界遺産に登録された

▲長田華鳳先生作品

第48回翠月学園祭
についての御報告

翠月古流副家元 秋元 華穂

東連彩花展

8月29日(木)・30日(金)

東武デパート

華道池坊寿美華流 佐藤寿美華

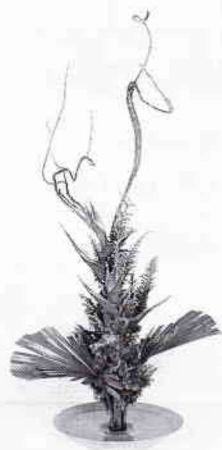


品川区華展

10月19日(土)・20日(日)

きゅりあん

華道池坊寿美華流 西岡 恵



各 地 各 流



テープカット

記念に「みくりや絵巻」という題のもと、先代の鈴木華園家元が愛した花形「富士の留め流し」など、故郷御殿場を誇りに思う気持ちをそれぞれが花に託して生けました。

華歴五十年の方から三カ月の方まで、また九十八歳から三歳の子どもまで、老若男女それぞれの思いを華に込め、多くの皆さまにご覧いただきました。台風の中、遠くまで足をお運びくださいました皆さま方にこの場をお借りいたしました。心より御礼申し上げます。

第62回静岡県華道展

翠月古流 田代 華晴

十月九日(水)から十四日(月)まで、第六十二回静岡県展が静岡松坂屋八階において開催されました。日華連所属は翠月古流のみですが、渡邊華風、田代華晴、小塚華征、海野華幸、芹沢華誠、石川華征、勝又華玲の七名が出品しました。

三次展で一万四千人の入場者数をえ、多くの方々が秋の一時を楽しんでおられました。また、いけ花体験教室(外国人、子どもは無料)もたいへん人気がありました。体験を通じていけ花人口が増えることを願っています。



▲田代華晴先生作品

第37回県民芸術祭参加
群馬県民の日記念

平成25年度

第64回群馬県華道展

10月29日(火)～11月1日(金)

群馬県庁県民ホール(北1階)



県下三十三流派二三名の作品が前期・後期に分かれて展示、出瓶総数二六四瓶で開催された。秋色に染まった会場は、自由花席で一部障子張りの席が設けられるなど、昨年と一味違った雰囲気醸し出された。県内各地からお越しくださった多くの方々に楽しんでもらえた。

*日華連加盟の出瓶流派

いけばな松風
遠州古流和松会
遠州秀月流
湖秀流
松月堂古流闘華
東華古流

第37回県民芸術祭参加・群馬県民の日記念
平成25年度 第64回群馬県華道展



いけばな松風 東京本部

— 暮らしの花展 —



▲入口看板

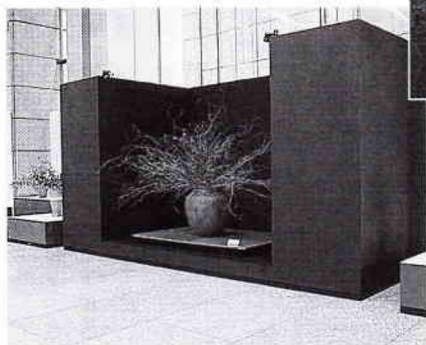
11月10日(日)~12日(火)
新宿パークタワー 1 F
午前10時~午後5時
(12日は午後4時まで)

2014年4月に「時代を彩る百花繚乱展」の会場となる新宿パークタワー。四十一階から五十二階までは、最高級ホテルパークハイアットです。今回は下見を兼ねて、多くの日華連の役員はじめ会員の皆さんにお出かけいただきました。

御礼申し上げるとともに百花繚乱展の成功を祈ります。

各地

各流



▲家元席

新宿パークタワーにおけるいけばな松風東京本部の「暮らしの花展」も七年目を迎えました。手前のコーナーがガラスの器、奥のコーナーが陶器、その中間に籠の器が配置され、リンドウ、ダリア、鶏頭などの秋の花々が彩る会場構成でした。盛り花のルーツである自然式も出品され、「本来の自然式には日陰が必要ですが、最近ではなかなか手に入らなくなりました。それなので今回は日陰を使わず、花屋さんで手軽に求められる花や庭の花を使った自然式に



▲ガラスのコーナー 中央は塚越応駿副家元作

まとめてみました」と家元。伝統を受け継ぐための新しい挑戦だったそうです。家元の雲竜柳とボケの花を使った大作は、朱色のボケの花が時間と共に咲き開き、日ごとに表情を変え、その美しさに来場者からは感嘆の声が上がっていました。

長谷川 応柚



▲自然式コーナー

いけばな松風東京本部

「暮らしの花展」を

拝見して

翠月古流 秋元 華穂

さる十一月十二日、十日から新宿のパークタワービルにて始まっていた、いけばな松風の「暮らしの花展」を拝見させていただきました。

理事長・塚越応鐘家元、応駿副家元の大作を始め、秋の一日に相応しい先生方の力作が並べられていました。広々としたスペースに丁寧に生けられた三十九の作品の一つ一つに、心温まる思いをさせていただきます。

来年から連盟展もパークタワーで開催されるとのこと、あの近代的な建築物の中にどのような日本の美が表現されるのか、今から楽しみです。



いけばな松風

秩父支部展

会期.. 10月26日(土)~28日(月)

午前10時~午後7時

(最終日は午後5時)

会場.. 矢尾百貨店5階大催事場

主催.. いけばな松風秩父支部

後援.. 秩父市教育委員会

いけばな松風家元

今回で三十四回目を迎える秩父支部展。すっかり秩父市民に定着し、毎回多くの市民にお出かけいただき、盛況の中終了することができました。



◀五十嵐応艶支部長の
迎え花



いけばな松風

塚越応駿副家元が王者に!!

LIVIZM 花いけバトル GP 2013王者決定戦

花いけバトルGP 2013王者決定戦が2013年12月9日白金の八芳園で開催され、塚越応駿先生が今年度のグランプリ王者に輝きました。

同じ条件で、観客の眼前で複数のバトラーが花をいける、花選びから完成まで5分と過酷なもの。今年度予選5つを終え、勝ち残ったバトラー5名に昨年度王者を加え6名による決勝戦で見事勝ち抜いたのです。おめでとうございます。



りますよう願ってやみません。

各流派の皆様原稿をありがとうございました。回ごとに流派の方々の原稿が増してきました。できるだけ全流派の方々の投稿をお待ち致します。より良き年をお迎え下さい。

編
集
後
記

今年は豪雨、それに竜巻と大きな災害が日本列島を駆け抜け、自然の猛威に驚かされた一年でした。

日華連では国文祭の参加や研修旅行もなく、少し寂しい感じでしたが、穏やかな年でした。来年は華展会場も変わり、飛躍の年にな

記録広報部

渡邊

華風

武井

美陸